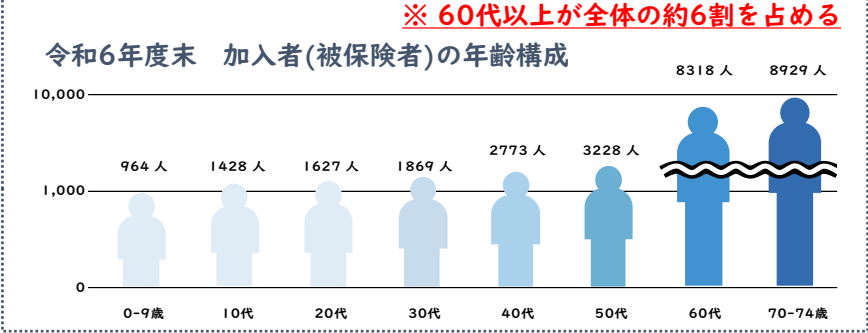
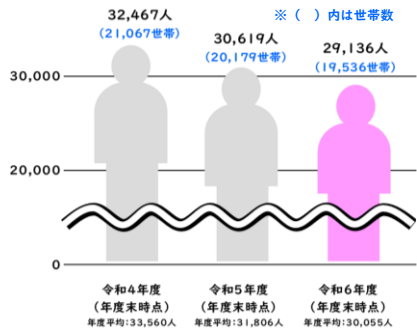


磐田市 国民健康保険 令和6年度 医療費分析の共有

令和6年度の医療等のデータから疾病や医療費について
分析しましたのでその結果をお知らせします。

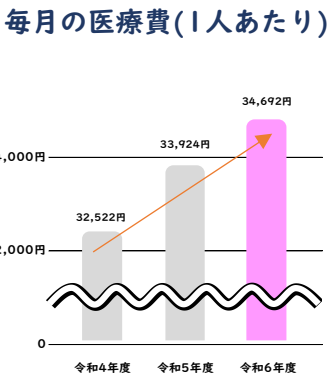
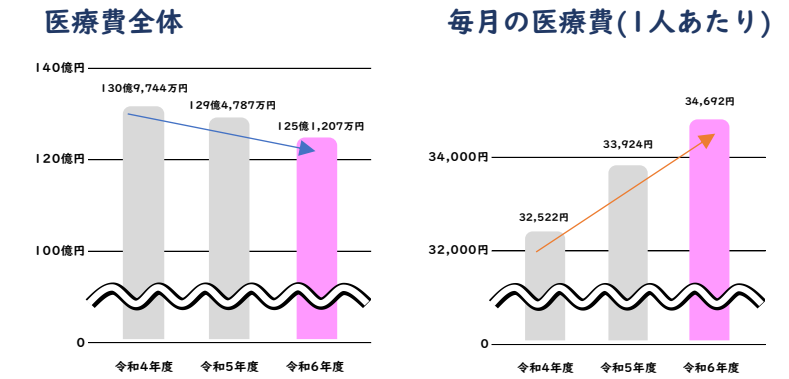
使用したデータ	・令和6年3月～令和7年3月 (医療費は令和6年度事業年報作成データに準ずる) (疾病分析はKDBシステムの対象診療月に準ずる)
抽出システム	・KDBシステム(令和6年度累計) ・しずおか茶っどシステム(令和6年度累計) ・国保情報データベースシステム3.0 ・令和6年度国民健康保険事業年報 (令和6年6月～令和7年5月 報分)
備考	KDBシステム・茶っどシステム数値について ☑ 医科、調剤、OPC、歯科、介護、健診 ☑ 制度：国保、後期、介護 ☑ レセプトデータはレセプト電算データのみ KDBシステムで集計された最大医療資源を使用 ※ 医科レセプトと調剤レセプトを紐付けし点数を合算し(紐づけられない場合は医科レセプトのみを対象とします)、傷病名と医薬品・診療行為・特定機械の紐づけを行い各種マスタの単価より、傷病名ごとに金額を集計します。各レセプトで、一番高い費用を要した病名を最大医療資源病名(主病)とします。

国保被保険者の推移



令和6年10月からの新たに社会保険適用拡大(51～100人の企業等まで範囲増加)や団塊世代の後期高齢者医療制度への加入等により、国保被保険者数は減少しています。令和5年度と比較して1,483人減少しました。

医療費の推移



1人あたりの医療費

※ 毎月3万5千円医療費がかかっている

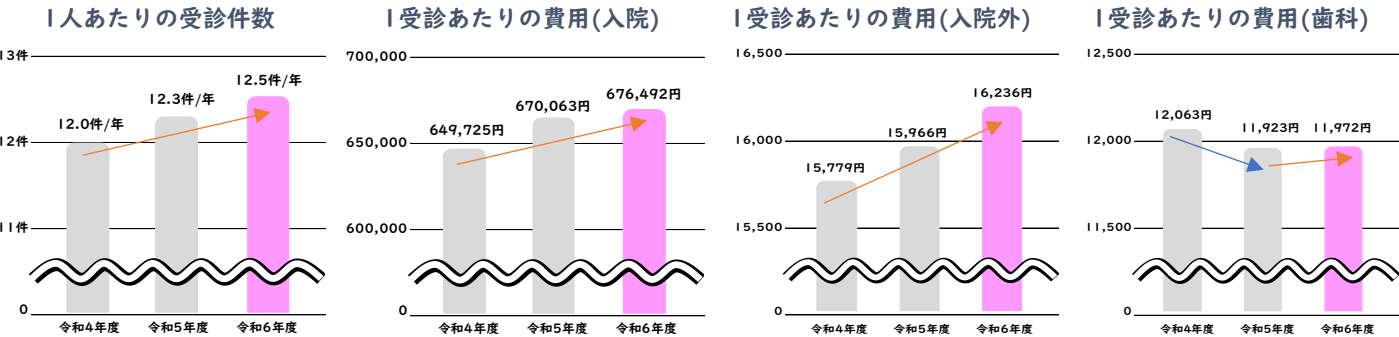
毎月の医療費 約35,000円

令和5年度比較 約800円増加

国保被保険者数の減少に伴い、医療費の総額は減少していますが、被保険者の高齢化や医療の高度化の影響もあり、1人あたりの医療費は増加傾向です。

令和5年度と比較して1人あたりの医療費は約9,000円(月額約800円)増加しました。

医療費の詳細について

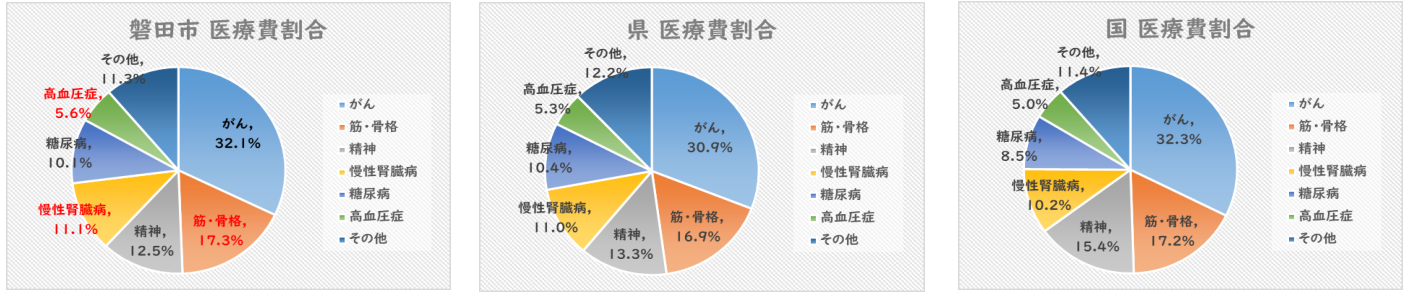


国保被保険者数は減少していますが、令和5年度と比較して1人あたりの受診件数は増加、1受診あたりの費用についても入院・入院外・歯科すべてで増加しました。

医療費にかかる疾病割合

医療費割合(市・県・国比較)

※KDBシステムより最大医療資源傷病名による抽出、調剤報酬を含む



医療費上位疾病すべてが生活習慣病関連の疾病です。医療費の疾病別割合を国及び県平均と比較すると「筋・骨格」「慢性腎臓病」「高血圧症」は高い結果です。

【参考】令和6年度 医療費(入院+外来)疾病ランキング
(KDBシステム医療費全体を100にしたときの% ※電子レセ集計)

※金額については、令和6年度の事業年報医療費額で想定した場合の費用額です

1位	慢性腎臓病(透析あり)	6.1%	約7億6千万円
2位	糖尿病	5.3%	約6億6千万円
3位	関節疾患	3.1%	約3億8千万円
4位	高血圧症	3.0%	約3億7千万円
5位	総合失調症	2.9%	約3億6千万円
6位	肺がん	2.6%	約3億2千万円
7位	不整脈	2.4%	約3億円
8位	脂質異常症	2.1%	約2億6千万円
9位	うつ病	1.9%	約2億3千万円
10位	骨折	1.6%	約2億円

生活習慣病関係について

※しずおか茶っどシステムより最大医療資源傷病名による抽出

予防可能な生活習慣病にかかる該当者数と費用について(磐田市 疾病該当者率ベスト3)

1位 高血圧症 2,327人 3億円超 (該当者率: 約7.6%)

2位 糖尿病 1,866人 6億円超 (該当者率: 約6.1%)

3位 脂質異常症 1,572人 2億円超 (該当者率: 約5.2%)

※ 国保被保険者100人に約8人が該当 ※ 国保被保険者100人に約6人が該当 ※ 国保被保険者100人に約5人が該当

【参考】全体 6,228人 (該当者率: 約20.4%)

R6: 約16億円

※ 国保被保険者の10人に約2人が該当

【参考】生活習慣病に関連する病気はどれくらいの医療費がかかっているか?

(1人あたりの年間医療費概算と年度末(令和7年3月末時点)患者数)

糖尿病	高血圧症	脂質異常症	高尿酸血症	脂肪肝	動脈硬化症	脳出血	脳梗塞	狭心症	心筋梗塞
1,866人	2,327人	1,572人	37人	39人	22人	17人	160人	172人	16人
約33万円	約15万円	約15万円	約12万円	約22万円	約72万円	約530万円	約100万円	約70万円	約230万円

※生活習慣病に関する病気は上記疾病以外にもあります
※実際には様々な病気や治療が複雑に重なり医療費は1人1人違います
※令和6年度の医療費に対して、年度末(令和7年3月末)時点の患者数で算出した目安金額です

総括

社会保険適用拡大などにより国保被保険者数及び医療費の総額は減少している一方で、被保険者の高齢化や医療の高度化の影響もあり1人あたりの医療費は増加しています。

国保加入者の全体約6割を60歳以上が占める国民健康保険の医療費は、主に生活習慣病関連の疾病が占めていることから、生活習慣病予備群含む40歳以上の対象者へ健康アプローチ、そして生活習慣の改善が重要となり、健康寿命の延伸が持続可能な国民健康保険事業につながります。

はやめはやめの健康管理を1人1人が意識していきましょう。

